FUJIFILM
Value from Innovation

SUSTAINABILITY REPORT 2014

ASHIGARA

ODAWARA

KANAGAWA FACTORY

富士フイルム 神奈川工場 サステナビリティレポート

ごあいさつ

はじめに

2014.1.20 富士フイルムは創立80周年を迎えました。神奈川工場は創業の地であり、弊社主力工場として多くの製品を世に送り出してきました。80年という節目の年を迎えられたのも、私どもの製品をご利用いただいておりますお客様をはじめ、この神奈川工場での生産活動へのご理解、ご協力をいただいている地域の皆様、そして従業員の努力があってのことと、改めてステークホルダーの皆様へお礼申し上げます。

生産活動

2005 年社名から ' 写真 ' の文字をなくし「富士フイルム株式会社」への変更とほぼ同時に小田原工場と足柄工場を統合し神奈川工場としました。現在の生産品は液晶ディスプレー用偏光板、保護フィルム「フジタック」などのフラットパネル用材料を中心に、写真感光材料、記録メディア製品、さらに新規機能性材料など幅広い分野の製品を生産する工場に変化しています。操業以来生産している写真フィルムはデジタル化への転換により年々生産量が減少しておりますが、それに代わる製品として「エクスクリア（透明導電性フィルム）」など高機能性材料をいくつか上市しこれらを成長軌道に乗せることが経営の最大の課題となっています。

環境保全活動

このように神奈川工場での生産品も時代の要請で大きく変化してきましたが、「地球・人類・企業の持続可能な発展を目指し、企業体質・製品・サービスにおける高い環境品質を実現して、顧客満足を達成する」ことを趣旨とする「富士フイルムグループ グリーンポリシー」を継続することには変わりありません。

これらのポリシーを実現する新たなしくみとして、神奈川工場では、2009年より「安全、環境、品質」の3つのマネジメントシステムを統合して運用する統合マネジメントシステム（IMS）を導入しました。統合運用することで経営環境の変化に対応した重点施策を一丸となって推進する『リスクマネジメント機能』の強化を図るものです。

今後の課題

東日本大震災から３年が過ぎた現在、社会全体で抱える大きな課題の一つは、エネルギー問題です。

生産者はお客様に価値ある機能を適正な価格で提供する役割があります。近年のエネルギーコスト上昇は大きな逆風であり乗り越えなければならない課題です。これらに対応するために2013年より全社エネルギー戦略推進委員会活動をスタートさせ神奈川工場でも大きな省エネ成果を上げることができました。2014年以降もエネルギー量削減は継続していく重要課題となります。

このように大きく変化する社会環境・経営環境に迅速に対応し、継続的な発展を遂げるには従来のやり方を常に見直し、改善していくサイクルを回す必要があります。地域の皆様をはじめ、社外の皆様と今後も双方向のコミュニケーションを図りながら、更なる改善に繋げたいと考えています。

皆様からのご指摘、ご意見、ご指導を賜れば幸いと存じます。

2014 年 7 月

富士フイルム株式会社
神奈川工場長
金武哲史

目次

ごあいさつ…… 1
神奈川工場の概要・環境負荷…… 2
神奈川事業場方針…… 3
2013～2014 活動のTopics …… 4
環境保全・労働安全衛生
《特集》……5･6
バリウムフェライト採用大容量カートリッジ
環境保全活動　大気・廃棄物の管理…… 7
水質・PRTR調査結果…… 8
省エネ・炭酸ガス排出量…… 9
地域とのコミュニケーション……10

■編集方針

本レポートは富士フイルム株式会社神奈川工場と当工場敷地内にある関連組織およびグループ会社の環境・安全および地域コミュニケーションについての活動と2013年度における実績を中心に掲載し、私たちの取り組みを読者の皆様にご理解いただくとともに取り組みの更なる向上を目指し、読者の方々とのコミュニケーションを図ることを目的に毎年発行しています。

本年度の特集は、産業分野発展に多大な貢献・功績のあった技術開発者、またはグループに贈られる「市村産業賞　本賞」を受賞した、当社独自の技術で記録密度を飛躍的に向上させた「バリウムフェライト磁性体」採用の磁気テープについてご紹介しています。

読者の皆様には、巻末にある連絡先までご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いに存じます。

概　　要

神奈川工場の概要

	小田原サイト	足柄サイト
所在地	〒250-0001 神奈川県小田原市扇町2-12-1	〒250-0193 神奈川県南足柄市中沼210
創立	1938年6月15日	1934年1月20日
生産金額	678 億円	576 億円
敷地面積	110 千㎡	326 千㎡
建物面積	46 千㎡	152 千㎡
延床面積	126 千㎡	443 千㎡
従業員数*	1,223 人	2,362 人
主要製品	・ＷＶフィルム 液晶ディスプレイ用視野角拡大フィルム ・記録メディア コンピューター用バックアップテープ 放送用ビデオテープ　など ・化学薬品 ＷＶフィルム用/写真用/外販用 硝酸銀	・ＴＡＣフィルム 液晶ディスプレイ用偏光板保護フィルム ・写真フィルムと印画紙 一般アマチュアおよびプロフェッショナル写真家用 ・写真感光材料 製版用/医療用/事務用/映画用/産業用 ・体外診断薬および医療機器 ・透明導電性フィルム

*2014年3月現在 サイト内にあるグループ会社の従業員数を含む

神奈川工場マネジメントシステム認証取得年月

	ISO9001	ISO14001	ISO14001 小田原 / 足柄サイト統合	OHSAS18001 ／ 統合マネジメントシステム運用
小田原サイト	1992 年 10 月	1996 年 10 月	2006 年 12 月	2009 年 11 月
足柄サイト	1992 年　9 月	1996 年 12 月	2006 年 12 月	2009 年 11 月

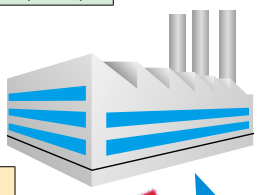
神奈川工場の環境負荷（2013 年度）

エネルギー・井水

	小田原サイト	足柄サイト
電力-買電	28,993 千kWh/年	103,393 千kWh/年
電力-自家発電	35,454 千kWh/年	92,545 kWh/年
重油	-	605 KL/年
都市ガス	12,828 千Nm³/年	42,544 千Nm³/年
井水・市水	3,410 千m³/年	9,441 千m³/年

主要原材料

	小田原サイト	足柄サイト
ベースフィルム	6,536 t/年	8,503 t/年
銀	213 t/年	146 t/年
鉄	257 t/年	-
ゼラチン	-	477 t/年



原料再生

	小田原サイト	足柄サイト
銀	2.7 t/年	765.9 t/年
溶剤	1,206 t/年	-
ベースフィルム	-	137 t/年

大気排出

	小田原サイト	足柄サイト
ＶＯＣ	44.9 t/年	261.7 t/年
CO_2	40.4 千t/年	124.4 千t/年
ＳＯｘ	-	0.9 t/年
ＮＯｘ	22.0 t/年	23.5 t/年
ばいじん	0.008 t/年	0.063t/年

リユース

	小田原サイト	足柄サイト
プラスチック	38.9 t/年	-

排水量

	小田原サイト	足柄サイト
公共河川	6,150 千m³/年	8,181 千m³/年
下水道	169 千m³/年	1,278 千m³/年

廃棄物量

	小田原サイト	足柄サイト
リサイクル	1,886 t/年	3,405 t/年
直接埋立+単純焼却	8.5t/年	5.5 t/年

製 品

概　　要

平成26年度　「神」事業場方針とスローガン

FUJIFILM
平成26年度神事業場方針

率先して革新を進め、
「売れる品質」、「儲かるコスト」を実現しよう！

IMS（安全・環境・品質）スローガン

責任と誇りを持った強い個人、
報・連・相が活発な強い組織を作る！

平成26年度　神事業場方針

神事業場では、創業以来生産し続けているフイルムに代わる新製品を成長軌道に乗せ、富士フイルムの大きな収益源としていくことが経営の最大の課題となっています。

それらを実現するには、お客様のニーズを的確に掴み、高品質な製品を低コストでタイムリーにお届けする必要があります。それを今年度の方針に掲げました。

スローガン

事業場方針を実現する源泉は個人と組織の現場力です。強い個人とコミュニケーションが活発な組織を作ることをスローガンにしました。。

「神」事業場方針実現のしくみとして運用する　「統合マネジメントシステム（神ＩＭＳ）」

統合マネジメントシステムの運用

神奈川事業場では、ISO9002（1992～）、ISO14001（1996～）、OHSAS18001（2009～）を認証取得し、2009年以降、これら３つのマネジメントシステムを統合マネジメントシステム（IMS）として運用しています。（IMS：Integrated　Management　System）

統合マネジメントシステム運用の狙い

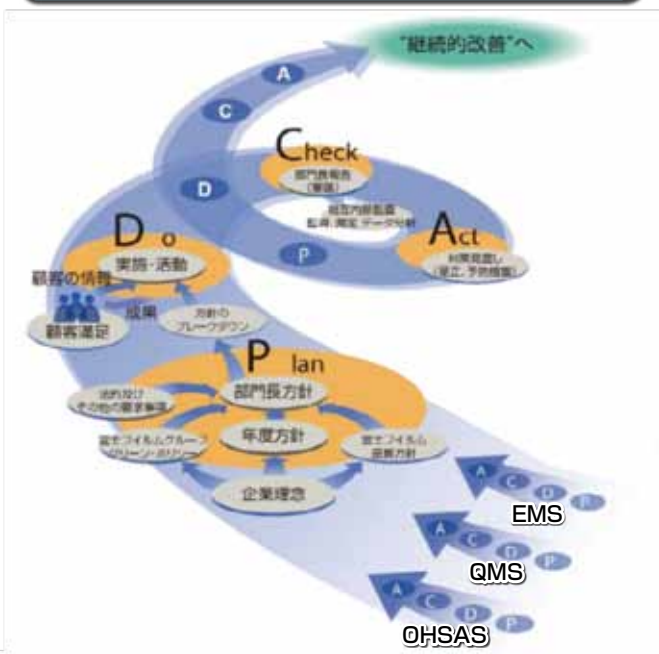
統合マネジメントシステムでは、事業場内の関係会社を含む全部門で統一した事業場方針、スローガンを定め一丸となって業務改善に取り組みます。

統合運用することで、より経営指針と一体となった事業基盤の強化につなげるとともにシンプルで効率的な改善のしくみを実現しています。

統合マネジメントシステムの運用体制

神奈川事業場では方針や重点課題を策定しIMS活動全体を統括するIMS委員会　と　「安全、環境、品質」のそれぞれの軸で改善活動を推進する専門委員会を設けそれらが連携して、重点課題を推進しています。

経営と一体となった改善活動



神 IMS　運用体制

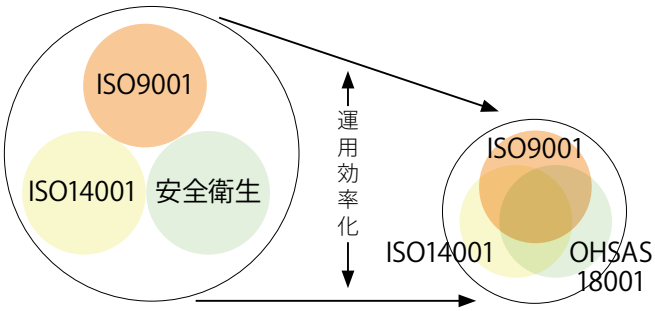
神IMS委員会
・神IMSの最高決議機関
方針、重点課題の決定、マネジメントレビュー

IMS専門委員会
・IMS安全委員会
・IMS環境委員会
・IMS品質委員会

・３専門委員会を設置
重点課題を３つのMSの観点で課題展開する機関

IMS各部委員
・事務局からの連絡窓口
各部門IMSデータベース管理者

IMS による運用の効率化



2013 ～ 2014　活動の Topics

環境保全

環境トラブル発生防止活動

環境トラブルを起こさないよう、常日頃からヒヤリハット事例でも是正処置を講じて類似トラブルの発生防止に努めています。しかし、そのヒヤリハットも撲滅できるように、今年から環境トラブル予防処置方法の導入を検討開始しました。H19～25年に発生したヒヤリハット事例をもとに、発生原因を再解析し、ヒヤリハット発生原因を「作業ミス」「ルール不明確」「事前KY、事後確認の不足」「設備構造欠陥」「設備老朽」に大別し、発生原因ごとに予防処置の方法を考案し、環境トラブル発生防止活動を展開しています。

＊ KY ＝危険予知活動

環境ヒヤリハットの原因大別と予防処置方法

原　　因	予防処置方法
定常作業における KY 不足および作業ミス	現場で出来る環境 KY 手法の導入
ルールに対する無知および不遵守	排水に特化し、各部の排水標準の内容ならびにその遵守状況の確認
非定常作業ならびに工事における KY 不足	環境側面を考慮した非定常作業申請、非定常排水届の運用
設備の構造、仕様ならびに運用上の欠陥	トラブル事例の水平展開
設備老朽化	環境側面評価を用いた対策箇所の重点化

入構車両からの油漏れ防止活動

神事業場では、工事作業や資材調達の入構車両からの油漏れ防止を排水事故防止の環境保全活動としています。

毎月数件ずつ、車両からの点々と続く油漏れが起きており、これまでも短期的にキャンペーンを実施し、取引会社に注意喚起していました。今年は幟の設置、携帯カードの配布、ドライバーへの意識調査などを行い、抜本的に社内外の意識ならびに感度アップを図り、油漏れゼロ化を推進しています。

労働安全衛生

工作機械ライセンス制度の見直しとハイリスク作業の総点検

平成24年度に発生した工作機械ライセンス取得者による休業災害を重く受け止め、ライセンス制度の大幅な見直しを行いました。改めて工作機械ライセンス取得者に対し、安全教育を行い、更に力量の総点検を実施しました。又、リスクの高い作業（リスクアセスメント高得点作業など）の安全確保状況について見直しを進め、重大災害ゼロを目指します。

屋外5S活動の促進

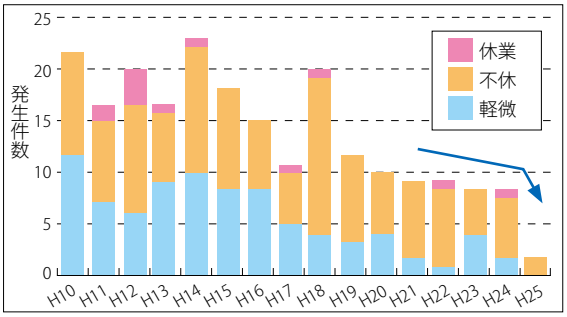
平成25年度の5S活動は、各職場で共通するエリアや屋外に対象範囲を拡大し、目が届き難い場所についても5Sの手を入れました。

労働災害件数の大幅減少

5S活動の促進、現場安全巡視の継続など、現場重視の安全活動を継続している手ごたえとして、平成25年度の神奈川事業場における労働災害は、過去最少に抑えることができました。（足柄サイト・小田原サイト　不休災害各1件）

今後、ゼロ災を目指して、現場に根ざした安全活動を推進します。

神事業場　労災発生状況トレンド



バリウムフェライト磁性体採用　大容量データカートリッジの開発と量産化

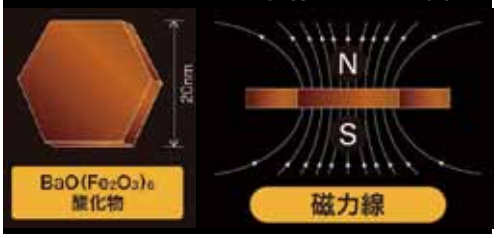
1．大容量データカートリッジ開発で市村産業賞を受賞

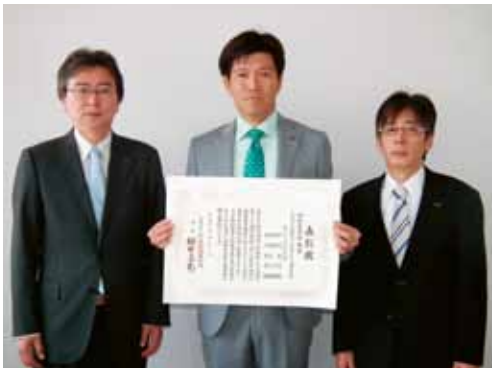
データ記録用磁気テープ（ビデオテープやカセットテープなど）の表面には磁性体と呼ばれる無数の微粒子が塗布されています。デジタルデータが0と1の配列で記録されるのと似た要領で、磁性体をS極とN極に磁化し、その配列によりテープにデータを記録します。この磁性体には、長年「メタル磁性体」が使用されていますが、記録密度を上げるために必要な磁性体の微粒子化に技術的限界が近づいていました。そこで当社が採用したのが「バリウムフェライト磁性体」です。バリウムフェライト磁性体は、磁気記録材料として切符の裏側などに使われていましたが、微粒子化が難しく、磁気テープに使うのは非現実的とされていました。しかし、当社独自の「ナノ薄層塗布型磁気テープ技術」により微粒子化を達成。磁気テープの大容量化を果たし、さらには耐久性・長期保存性の高性能も実現させました。

この功績に対し、2014年4月には第46回「市村産業賞 本賞」を受賞しました。世界中のデータ容量の増加により、大容量データ保存需要が高まっており、注目を集めている製品です。

*「市村産業賞」… 優れた国産技術を開発することで産業分野の発展に多大な貢献・功績のあった技術開発者、またはグループに贈られる賞。今回受賞した「本賞」は該当する案件がある年にのみ贈呈され特に栄誉がある。

バリウムフェライト磁性体のイメージ図





市村産業賞本賞の表彰状を持つ受賞者のみなさん
左から知的財産本部　斉藤真二さん
記録メディア研究所　野口仁さん、萬代俊博さん

2．磁気テープの特徴と用途

磁気テープカートリッジは、

1）大容量であるがゆえに単位データ容量あたりのコストを低減できる
2）データの保管時に電力等のエネルギーを大幅に節約できる
3）高い信頼性を有し長期保存に適している

といった特徴があります。そのため、金融機関やデーターセンターが保有する膨大なデータ、放送局の映像データ等の保存に用いられています。

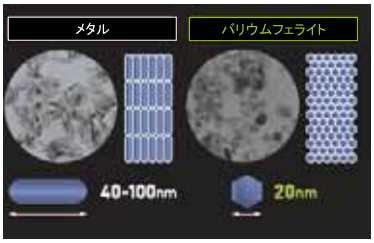
3．大容量化を支える技術

カートリッジの大きさを変えずに大容量化を達成するためには、テープの単位面積当たりに書き込めるデータ量を増やす（＝高密度記録化）ことと、テープの厚さを薄くして長く巻くことが必要になってきます。

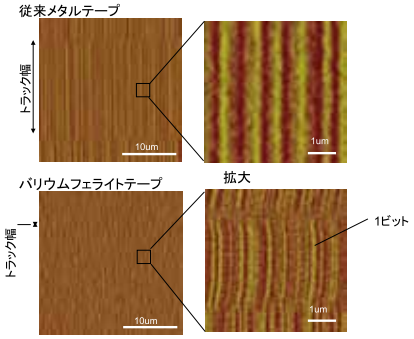
1）高密度記録化

高密度記録を実現するためには、磁気記録する信号を小さくする必要があります。これを可能にするためには、データ記録される磁性体の大きさをより一層小さくする必要があります。この要求を満たすために当社はバリウムフェライト磁性体のx粒子化に成功し(20nm)、これを用いたテープを実用化して高密度記録を可能にしました。

磁性体サイズの比較

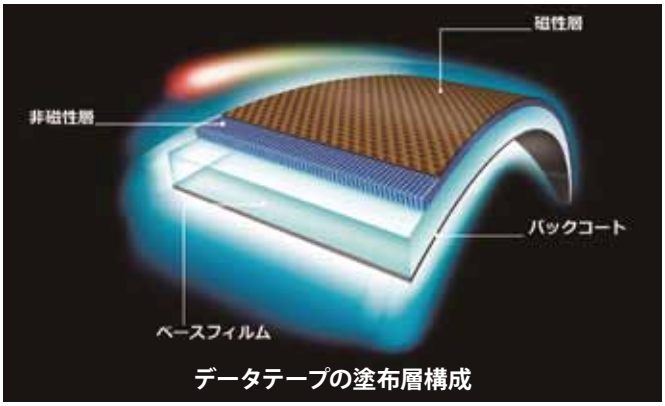


デジタル信号のビットサイズイメージ



*　1nm＝0.001μm＝0.000001mm

2）薄手化対応



データテープの塗布層構成

テープの薄手化のためには、ベースフィルム自身の薄層化に加えて、塗布する塗布層を薄くする必要があります。20nmの微粒子を均一かつ安定的に分散し、薄く塗りつける技術を開発して磁気テープの製造に適用しました。（各塗布層の厚さは数10nm～1μm前後です。）

4．保存安定性向上の技術

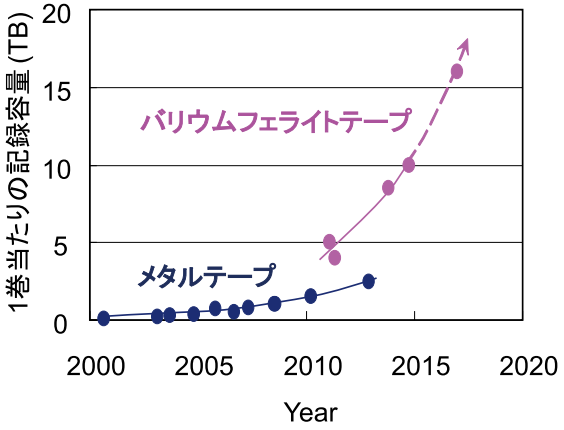
テープが劣化する要因の一つは酸化です。従来のメタル磁性体では現行製品に使用されているもの以上に小さくした場合、時間の経過とともに酸化し徐々に磁気記録特性が劣化していきます。それに対し、バリウムフェライトは酸化鉄という非常に安定な材料であり、微粒子化にともなう劣化進行はなく、データ保存の安定性・信頼性も今まで以上に高まっています。

5．環境への配慮

カートリッジ１巻当たりのデータ容量が85倍に大容量化できたため、必要なカートリッジ数も1/85まで少なくできます。そのため単位容量あたりの生産に必要なエネルギー（CO_2排出量）を大幅に少なくするという観点で環境に大きく寄与していることになります。また、お客様のご使用においても、従来よりも少ないカートリッジでデータ保存が可能であるとともに、保存のための空調設備・電気代等の節約や廃材の削減にも貢献できるため、グローバルな環境負荷低減になっています。

6．今後の展開

当社のバリウムフェライトテープは、さらに記録密度を高めることが可能であることがIBM社との共同研究で実証されています。昨年、1巻8.5TBの磁気テープカートリッジが実用化されましたが、これを１巻154TBにできることが実証されました。今後も、実用化のための検討を進め、急速に増加するデータ保存のニーズに着実に応えていきます。



大気（ばい煙・VOC）

		項目	対象設備	単位	県条例排出基準	工場管理値	2011 年度	2012 年度	2013 年度
小田原サイト	総量規制	ＮＯｘ（窒素酸化物）		Nm³/h	2.49	2.49	0.57	0.47	0.71
	濃度規制	ＮＯｘ（窒素酸化物）	ガスタービン	ppm	20	20	14	15	15
			１Ｆ貫流ボイラー	ppm	60	60	29	31	50
			３Ｆ貫流ボイラー	ppm	60	60	休止中	休止中	休止中
足柄サイト	総量規制	ばいじん		kg / h	13.63（総量）	13.00（総量）	0.12	0.00006*	0.007**
		ＮＯｘ（窒素酸化物）		Nm³/h	23.48（総量）	21.20（総量）	5	3.20	1.42
		ＳＯｘ（硫黄酸化物）		Nm³/h	35.7 (5B)	35.7 (5B)	3.1	―	―
	濃度規制	ばいじん	５号ボイラー	mg / Nm³	50	45	2	―	―
			７号ボイラー	mg / Nm³	50	50	1 未満	1 未満	1 未満
		ＮＯｘ（窒素酸化物）	５号ボイラー	ppm	110	107	61	―	―
			７号ボイラー	ppm	50	50	35	31	31

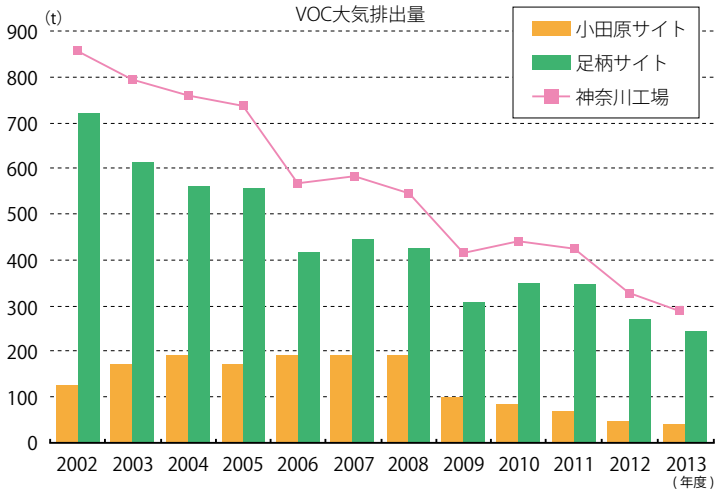
総量規制の数値は最高値、濃度規制の数値は平均値です
* 2011 年 12 月に５Ｂ（重油使用）を廃止したことで　ばいじんが激減しています
** 2013 年度は７号ボイラー定期検査のため小型ボイラ（重油使用）を運転しています

VOC 排出濃度規制への対応

小田原サイト 21 施設、足柄サイト 7 施設の排出口での濃度測定を行い、規制値以下であることを確認いたしました。

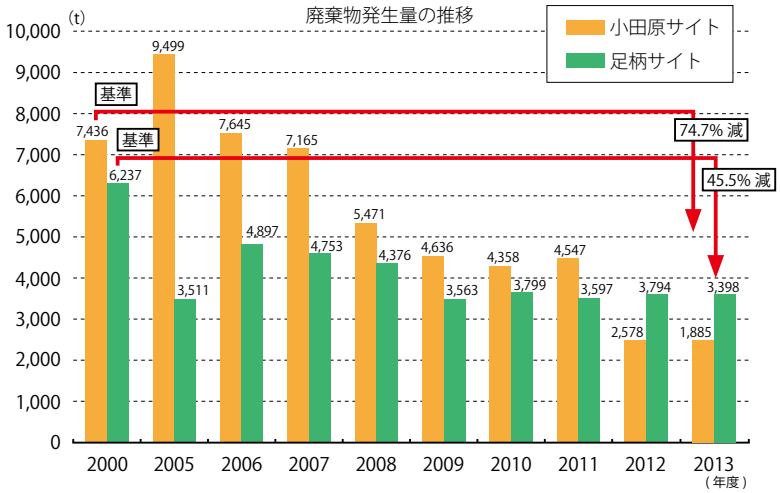
揮発性有機溶剤（VOC）大気排出量の削減

神奈川工場ではＶＯＣ大気排出量の削減に取り組んでいます。
2013年度も老朽設備の更新や工程改善を行い、排出量を削減することができました。



廃棄物の管理

神奈川工場では廃棄物の発生量削減に継続して取り組んでいます。
その結果、2013年度は対2000年度比小田原サイトで74.7%、足柄サイトで45.5%削減することができました。今後も廃棄物の有価物化など、更なる削減に向けた取り組みを進めます。



水質

河川放流系

主な項目		法規制値	小田原サイト 県条例値	小田原サイト 工場管理値	小田原サイト 2012 年度	小田原サイト 2013 年度	足柄サイト 県条例値	足柄サイト 工場管理値	足柄サイト 2012 年度	足柄サイト 2013 年度
水素イオン濃度 (p H)	-	5.8 ～ 8.6	5.8 ～ 8.6	5.9 ～ 8.5	7.9	7.6	5.8 ～ 8.6	5.9 ～ 8.5	7.8	7.2
生物化学的酸素要求量 (BOD　*1)	mg/L	160	60	50	1 未満	1 未満	25	20	1 未満	3.7
化学的酸素要求量 (COD　*2)	mg/L	160	60	50	1 未満	1 未満	25	20	1 未満	1 未満
浮遊物質量 (SS)	mg/L	200	90	75	1 未満	1 未満	70	50	5 未満	5 未満
大腸菌郡数	個 /cm3	3000	3000	300	10 以下	10 以下	3000	300	1 以下	1 以下
ヘルマルヘキサン抽出物質含有量 (鉱油類含有量)	mg/L	5	5	4	1 未満	1 未満	5	5	0.5 未満	0.5 未満
銅含有量	mg/L	3	3	1	0.05 未満	0.05 未満	1	0.3	0.05 未満	0.05 未満
亜鉛含有量	mg/L	2	2	1	0.02 未満	0.02 未満	1	0.3	0.1 未満	0.1 未満
溶解性鉄含有量	mg/L	10	10	5	0.05	0.05 未満	1	0.5	0.1 未満	0.1 未満
溶解性マンガン含有量	mg/L	10	1	0.5	0.02 未満	0.02 未満	1	0.5	0.1 未満	0.1 未満
クロム含有量	mg/L	2	2	1	0.05 未満	0.05 未満	1	0.5	0.1 未満	0.1 未満
六価クロム化合物	mg/L	0.5	0.5	0.2	0.05 未満	0.05 未満	0.5	—	—	—
ジクロロメタン	mg/L	0.2	0.2	0.1	0.002 未満	0.002 未満	0.2	0.16	0.02 未満	0.02 未満
シアン	mg/L	1	1	0.8	0.05 未満	0.05 未満	0.5	0.3	0.05 未満	0.05 未満
ニッケル含有量	mg/L	—	1	0.5	0.05 未満	0.05 未満	1	—	—	—
フェノール類	mg/L	5	0.5	0.2	0.05 未満	0.05 未満	0.05	0.03	0.01 未満	0.01 未満
ふっ素	mg/L	8	8	6	0.1 未満	0.1 未満	8	6	0.2 未満	0.2 未満
カドミウム	mg/L	0.1	0.1	0.08	0.01 未満	0.01 未満	0.05	0.01	0.01 未満	0.01 未満
鉛	mg/L	0.1	0.1	0.08	0.05 未満	0.05 未満	0.1	0.06	0.01 未満	0.01 未満
セレン	mg/L	0.1	0.1	0.08	0.005 未満	0.005 未満	0.1	0.08	0.01 未満	0.01 未満

* 1 . BOD とは水中の汚れ（主に有機性汚濁物質）が微生物によって酸化されるときに消費される酸素の量を指します。
* 2 . COD とは水中の汚れ（主に有機性汚濁物質）が酸化剤によって酸化されるときに消費される酸素の量を指します。

測定値は毎年度 10 月度における数値を示しました。

地下水水質

工場内外に、小田原サイトでは10ヶ所、足柄サイトでは16ヶ所、観測井を設置し定期的にモニタリングしています。

主な項目　（単位：mg/L）	法定浄化基準および県条例基準	小田原サイト 工場管理値	小田原サイト 2012 年度（測定 10 箇所）	小田原サイト 2013 年度（測定 10 箇所）	足柄サイト 工場管理値	足柄サイト 2012 年度（測定 16 箇所）	足柄サイト 2013 年度（測定 16 箇所）
カドミウム	0.01	0.01	0.001 未満	0.001 未満	0.005	0.005 未満	0.005 未満
全シアン	検出されないこと	検出されないこと	検出されず（0.005 未満）	検出されず（0.005 未満）	検出されないこと	検出されず（0.1 未満）	検出されず（0.1 未満）
鉛	0.01	0.01	0.005 未満	0.005 未満	0.01	0.005 未満	0.005 未満
六価クロム	0.05	0.05	0.01 未満	0.01 未満	0.01	0.01 未満	0.01 未満
砒素	0.01	0.01	0.001 未満	0.001 未満	0.01	0.005 未満	0.005 未満
総水銀	0.0005	0.0005	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005	0.0005 未満	0.0005 未満
アルキル水銀	検出されないこと	検出されないこと	検出されず（0.0005 未満）	検出されず（0.0005 未満）	検出されないこと	検出されず（0.0005 未満）	検出されず（0.0005 未満）
PCB	検出されないこと	検出されないこと	検出されず（0.0005 未満）	検出されず（0.0005 未満）	検出されないこと	検出されず（0.0005 未満）	検出されず（0.0005 未満）
ジクロロメタン	0.02	0.02	0.0002 未満	0.0002 未満	0.015	0.0005 未満	0.0005 未満
四塩化炭素	0.002	0.002	0.0002 未満	0.0002 未満	0.002	0.0002 未満	0.0002 未満
1,1,1,- トリクロロエタン	1	1	0.0002 未満	0.0002 未満	0.001	0.0005 未満	0.0005 未満
トリクロロエチレン	0.03	0.03	0.0002 未満	0.0002 未満	0.001	0.0005 未満	0.0005 未満
テトラクロロエチレン	0.01	0.01	0.0002 未満	0.0002 未満	0.001	0.0005 未満	0.0005 未満
ベンゼン	0.01	0.01	0.0002 未満	0.0002 未満	0.01	0.0002 未満	0.0002 未満
セレン	0.01	0.01	0.005 未満	0.005 未満	0.01	0.005 未満	0.005 未満
硝酸性窒素および亜硝酸性窒素	10	10	4.4	6.0	10	2.2	2.0
ふっ素	0.8	0.8	0.1 未満	0.1	0.8	0.2 未満	0.2 未満
ほう酸	1	1	0.1 未満	0.1 未満	1	0.1 未満	0.1 未満

「○○未満」とは検出限界未満を表します。

PRTR 調査結果

PRTR 対象物質・自主管理化学物質データ（2013 年度）

単位：ｔ / 年

	対象物質名	政令指定番号	排出量 大気	排出量 前年との差異	排出量 水域	排出量 土壌	移動量
小田原サイト	アセトニトリル	13	0.0	-0.1	0.0	0.0	1.3
	銀及びその水溶性化合物	82	0.0		0.0	0.0	0.0
	コバルト及びその化合物	132	0.0		0.0	0.0	0.3
	ジクロロメタン	186	4.0	1.2	0.0	0.0	0.1
	N,N- ジメチルアセトアミド	213	0.2	0.0	0.0	0.0	23.3
	N,N- ジメチルホルムアミド	232	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4
	トルエン	300	0.2	-0.8	0.0	0.0	9.3
	ヒドラジン	333	0.0		0.0	0.0	0.0
	ヒドロキノン	336	0.0		0.0	0.0	0.0
	n- ヘキサン	392	1.1	-0.7	0.0	0.0	17.2
	りん酸トリフェニル	461	0.0		0.0	0.0	5.9
足柄サイト	アセトニトリル	13	0.2	0.0	0.0	0.0	1.4
	アンチモン及びその化合物	31	0.0		0.0	0.0	0.0
	銀及びその水溶性化合物	82	0.0		0.0	0.0	0.0
	パラークロロフェノール	121	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8
	クロロホルム	127	0.2	0.0	0.0	0.0	1.0
	ジクロロメタン	186	72.0	-19.5	0.0	0.0	33.1
	セレン及びその化合物	242	0.0		0.0	0.0	0.1
	トルエン	300	0.1	0.0	0.0	0.0	5.5
	砒素及びその無機化合物	332	0.0		0.0	0.0	0.0
	ヒドロキノン	336	0.0		0.0	0.0	0.2
	n- ヘキサン	392	0.9	0.0	0.0	0.0	4.5
	メチルナフタレン	438	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0
	りん酸トリトリル	460	0.0		0.0	0.0	0.3
	りん酸トリフェニル	461	0.0		0.0	0.0	33.6

* PRTR とは環境汚染物質排出移動登録（Pollutant Release and Transfer Register）の略で、化学物質を製造・使用する事業者が自主的に環境への排出量を把握・管理する仕組みのことです。

省エネルギー・CO_2排出量の削減

神奈川工場は2013年度よりエネルギー戦略推進委員会を発足させ、工場をあげて省エネ活動を積極的に行い、CO_2の排出量削減と省エネに取り組みました。

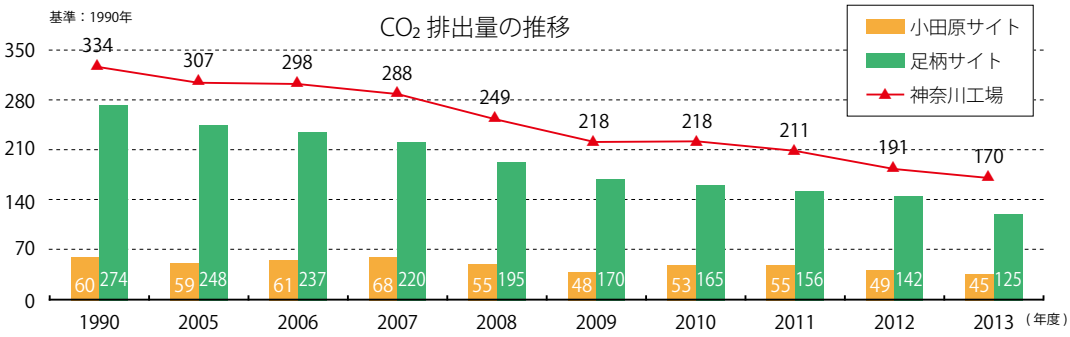
エネルギー供給部門では、廃熱の回収によるボイラー効率の改善・水源地のポンプインバーター化やカレンダータイマーによる不使用時の蒸気供給停止等による省エネを進めてきました。

エネルギー使用部門では、水銀灯のLED化や製造設備の停止期間中の徹底した節電を進めてきました。

その結果CO_2排出量は、前年比で約11%削減、1990年比で約49%削減ができました。

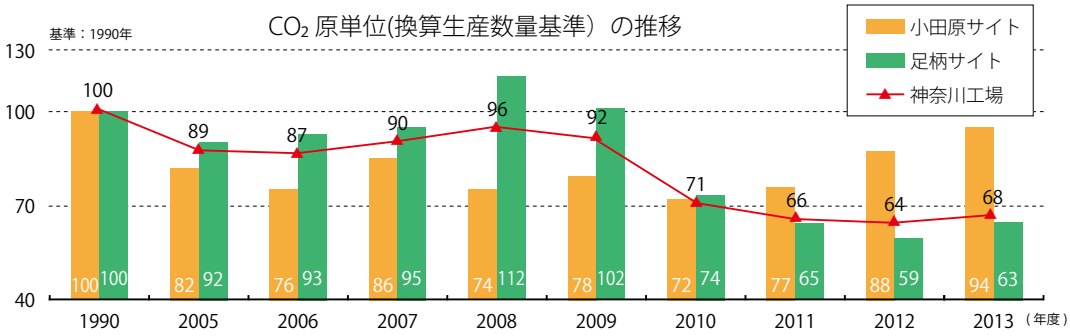
CO_2 排出量の削減

神奈川工場は1990年比約49%低減を達成しました。



CO_2 排出原単位の改善

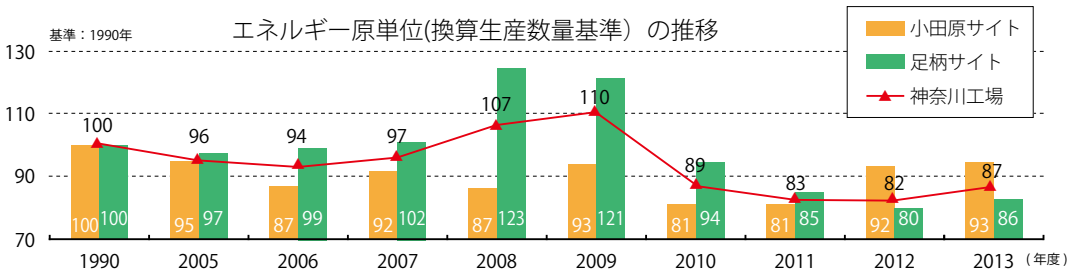
神奈川工場は1990年比約32%低減を達成しました。



※CO_2排出原単位…製品㎥当たりのCO_2排出量

エネルギー原単位の改善

神奈川工場は1990年比約13%の低減を果たしました。



※エネルギー原単位…製品㎥当たりのエネルギー使用量

地域とのコミュニケーション

従業員の積極的なボランティア活動参加などによる地域との共生、社会への貢献を大切にしています。

清掃活動への参加

「クリーンさかわ」への参加　5月

小田原市自治会連合主催による美化運動に市民や様々なボランティア団体の方々と一緒に参加し酒匂川流域の清掃作業を行っています。

「山王川・久野川」の清掃　6月

小田原市および山王川・久野川流域自治会主催による河川の清掃作業を自治会の方々と一緒に行っています。

「春木径・幸せ径」の草刈　6月・9月

春木径奉仕会主催による両岸土手の草刈を近隣住民の方々・様々なボランティア団体のみなさんと一緒に行っています。

コアジサシの郷づくり　3月

小田原市が主催する市鳥「コアジサシ」の常巣地を作る活動に参加しています。

従業員による地域とのかかわり

「環境フェア」への参加　6月

南足柄市役所で開催される環境フェアに参加し工場の環境活動について見学に訪れる小学生にもわかりやすく説明しています。

中沼自治会環境説明会　11月

神奈川工場周辺の自治会の皆様へ事業場の環境への取り組みを説明し意見交換を行っています。

「小田原市出初式」参加　1月

新春恒例小田原市消防出初式に参加しています。

「写真教室」の実施　随時

小学校などへ出向き写真の歴史や色の3原色を説明、現像液を使ったプリント作業を実施し子ども達に写真の楽しさを伝えています。

［表紙について］

樹木の枝や葉の間から漏れる陽光。
継続・改善・発展をいくつもの光にみたてた
デザインにしました。

■対象組織
富士フイルム神奈川工場　および
当工場敷地内のすべての関連組織、グループ会社が対象
■神奈川工場
イメージング材料生産部
ファインケミカル生産部
保全技術部
事務部
■主な関連組織
フラットパネルディスプレイ材料生産部
フラットパネルディスプレイ材料研究所
有機合成化学研究所
記録メディア事業部生産部
記録メディア研究所
生産技術センター
■主なグループ会社
富士フイルムフォトマニュファクチャリング（株）
富士フイルムメディアマニュファクチャリング（株）
富士フイルムファインケミカルズ（株）平塚工場小田原分室
富士フイルムビジネスエキスパート（株）
富士フイルムエンジニアリング（株）

FUJIFILM
Value from Innovation
富士フイルム株式会社

神奈川工場
小田原サイト
〒 250-0001　神奈川県小田原市扇町 2-12-1

足柄サイト
〒 250-0193　神奈川県南足柄市中沼 210

■参考にしたガイドライン
環境省 「環境報告ガイドライン
～持続可能な社会を目指して（2007年度版）」
GRI 「サステナビリティ･リポーティング･ガイドライン2006」

環境省 「環境会計ガイドライン（2005年度版）」

■環境データ対象期間
2013年度（2013年4月～2014年3月）

本レポートに関するご意見・お問い合わせは下記までお願い致します。
富士フイルム　神奈川工場　事務部　環境安全グループ
TEL：0465（73）6090
FAX：0465（73）6909
E-mail：kami_kankyouiinkai@fujifilm.co.jp

発行　2014年7月　　次回発行予定　2015年7月